

復活の主日・復活の聖なる徹夜祭

福音朗読 マルコ 16・1-7

2024.3.30 18:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

みなさん、主のご復活おめでとうございます。

今夜、そして明日^{あした}、わたしたちはキリスト教にとって最も大切なご復活のお祝いをお祝いたします。どうして復活祭、御復活が一番大切なのかと言えば、それは、イエス様が今もわたしたちと共にいて、そしてわたしたちが望むならばご自分をわたしたちに示してくださる、そして共に歩んでくださる、そのイエス様とわたしたちはいつも一緒にいることができる、それを確認すると言うか、そのキリスト教の信仰の出発点、土台となる出来事を記念する、それが復活祭だからです。

ですから、今日わたしたちはそれぞれいろんな理由でここに集まっていますけども、しかし復活したイエス様が呼んでくださって、その呼び掛けに応えてここに集まっていると信じて良いんだと思います。

そして、今日このごミサの中で新しく洗礼をお受けになる方々もいらっしゃいます。洗礼までにはいろんなきっかけや出会いがあったと思いますけども、やっぱり神様が呼んでくださったから、この洗礼を受ける、そのときになっていると言うことができると思います。

旧約聖書には、預言者サムエルのお話が出てきます。子どものときのサムエルは、神殿に泊まり込んで祭司に仕える、そういう係をしていました。でも、夜サムエルが寝ていたら「サムエル、サムエル」って呼ぶ声が聞こえた。祭司様に呼ばれたんだと思って行ってみたら「わたしは呼んでないよ」ということが繰り返しかつて、祭司エリは「ああ、これはサムエルは神様に呼ばれたんだなあ」ということに気が付いて、「今度呼ばれたら、『神様、わたしは聞いていますから、どうぞ話してください』っていうふうに答えなさい」というふうに教えます。そうして、サムエルと神様との関係が深まっていく（サムエル記上 3 章参照）。

同じ様に、今日洗礼を受ける方、そしてまたここにお集まりになった方にも、教会を通して——祭司の務めですから——「皆さんを呼んだのは神様ですよ」ということを申し上げる、確認したいと思います。そして、「神様、わたしは聞いています。どうぞ話してください」というふうに一緒に答えられるならば、サムエルと共に答えられるならば、神様との、イエス様との関係はどんどん深まっていく、もっともっと身近にイエス様を感じるできるようになっていくと思います。

それは、他の人^{ほか}と人^{ほか}とが出会っていくということとも同じです。わたしたちは誰かに出会うときに、この人が自分の役に立つのか、使える人間か使えない人間か

という思いで出会うならば、本当のその人には出会えません。しかし、もっと良く知り合いになって、そして仲良くなりたいと純粋な思いで出会おうとするならば、人と人との関係も、どんどんどん相手のことが分かり、そして良いところも見えて、いろんなことを学んでいく関係になると思います。

神様、イエス様との関係もそうです。イエス様との関係、もっともっと仲良くなりたいと思うならば、どんどんどんイエス様はご自分を表わしてくださり、そして人生のどんなときにもいつも一緒にいてくださるということを、わたしたちも分かるでしょう。どんなに愛し合っている他の人が決して一緒にいることができない、その瞬間にもイエス様は一緒にいてくださる。それは死の瞬間です。

死に至るまで、そして死を超えて人生を通してずうっと絶えず共にいてくださるイエス様との繋がりをわたしたちがもっともっと深める、出会っていくことができますように、お互いのために恵みを願い合いながら、このごミサをお捧げしたいと思います。

それでは、これから洗礼式に入ります。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>